三十日 夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵 税 金十五錢
□一 部 賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜 報 欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電 話（平） 七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森 合 英

一層積極的な事は郷土の精神の表現とふ事であらう（池島重信）

閼伽井嵐

指導精神を

高木稻水

去月以來「磐城魂」運動を提唱して諸家の御高見を徴して本欄に發表して來ましたが、大体の論議もほぼ盡き目的も達したので此邊で打切りと致します。さて私の「磐城魂」論なるものを提唱した理由は滔々たる現代の復古思想の潮流に乗つて、此際郷土の歴史を振り返つて見て内なるものを檢討して見たいといふ事と、時局柄喫急を要する磐城青少年の指導精神の根源を捉へたいといふ所にあつたわけです。而してこれ迄に掲載した諸家の意見を綜合して見ると要するに『何々魂」といふのはその土地に傳はる傳統の精神であつて、不幸にしてわが磐城には過去のいろ〳〵な歴史的原因が禍してきはだつた磐城精神といふやうなものは認められぬといふ所にあつたやうである。變つた所では最後に出た宗雪山人の「氣質論」であるがこの論にも傾聽すべき種々の示唆が含まれてゐる。我々は今後磐城人の長所短所、延いては体質、性格等を科學的に檢討して次の時代に送り出す我等の青少年を正しく導いて行きたい。そしてこの世界的變動期に際し次の時局を擔當するに足る青少年を中央に地方に送り出したい。それは必ずしも所謂偉人豪傑を作れといふ意味ではない。いかなる職業に從事しいかなる地位にあつても磐城人はどこか違ふといふやうな人物を作れといふことである。

なほこの磐城魂論は排地的封建思想を含むやうに誤解されるが、決してさやうな狹量なものではなくこの土地に住んでゐる人の愛土運動であるといふ味岡伯三氏の説に私も全面的に贊意を表する（完）

渡邊外二ヶ村の『共同炊事』に就いて（二）

平保健所　田口之晴

二、本共同炊事に於ける特色

本共同炊事の實施に當りては吉田技手殿の切なる注文もあり模範的なるものを作り上げるといふことが最大なる目的であつた關係上、各地に行はれつゝある共同炊事と大變異色ある事と思ふ。然異色ある點必ずしも今後普及に必要なるものではないことを斷つて特色の二三を記述して見たいと思ふ。

（一）指導機關との密接なる連絡

當地に於ける指導機關は勿論保健所であるが保健所の持つ全能力を完全に利用したといつて過言でない

則ち健康診斷、飲料水檢査榮養調理と保健所の持つ機能を完全に利用し衛生的なる完全なる榮養食の配給に細心の注意を拂ひたること

（二）田植前後に於ける体力消耗程度の測定

田植前後に於ける体力消耗を共同作業と共同炊事の併行とによりどれだけに防止し得たかといふ事に關し今後の參考事項として測定せり、昨年度に於ては体重胸圍背筋力等が共に增加しむしろ体力の消耗を完全に防止し得た今年度に於ては特に對照部落を設定完璧を期せり

（三）水質檢査の結果不良井水に對する消毒

共同炊事實施部落の全戸に渡り水質井戸の構造を調査し可及的水道良好にして水量最高なる所に炊事場を選定せしむる様に努力せり諸種の事情により水質不良なる場所に選定せざるを得ざるもの有りしを以て炊事實施前出張クロラミンによる井水消毒法を指導毎晩就寢前實施せしめ萬全を期せり

湯本町に發見された二巨匠の墓碑

吉田美風

（中）

私の鑑識にして誤なくんば其銘文字は恐らくは内藤露沾公の親書で公に先立つて世を去つた弟子のために公が自ら筆を採られ、墓も公が選ばれて建碑されたものかと思ふ。其の書体から見てもこの墓碑の發見は内藤露セン公の人格の卓絶して彌々偉大なりしと追偲ばれてゆかしい史蹟記念物である。も一つの墓は觀音山の北麓惣善寺墓地内にある畫人田キの墓碑である。この田キは岩代須賀川町の人で幕末化政時代の黎明期前日本最初の洋畫銅版畫の創作先驅者として田善の衣鉢を襲いた有名な巨匠である。そして一方には東嶽と號して桑名侯に仕へた日本畫壇の泰斗であつたことを世人は余り知つて居ない。今度其人の墓碑が發見されたので先きに二三年前須賀川で發見された墓碑は田キ夫妻の法號だけのものだが湯本惣善寺の墓碑は砂岩質の平石で高サ三尺余厚サ四寸七分幅一尺五六寸東嶽田君之墓と表記し碑陰には墓誌銘があるが文字苔蝕殆ど辨知し難きものがあつたのを掃苔して漸く判讀した。惣善寺過去帳に依ると文政十亥歳四月十一日徳譽玄風田キ善信士須賀川人當所にて死去　荒木屋九郎兵衛の兄とあり、この血線關係で磐城湯本に來遊してゐたことが判明した。

新刊紹介

△第七版商業綜合型錄（事務用品製圖用器具　内田洋行編輯部）定價二圓

△商業組合法　稻川宮雄著、有斐閣發行　定價四圓

△新体制下の商人讀本　長岡逸郎著、商業組合中央出版部發行　定價八拾錢

△商業組合の商品券に就いて　池田德次郎著　商業組合關係資料第四輯　定價廿錢

△商業組合自治監査要綱　商業組合中央會監査課編　定價廿錢

△商業組合簿記の實務　芳野國雄著　伊藤書店發行　定價二圓

△商業組合經營の實際　坂田武雄著　伊藤書店發行　定價二圓

平市マルトモ書店發賣

『土』

加藤香風選

日本水素番傘川柳會　井上彌壽子

空地利用都人も土にしたしめり
黒土にふれて故郷を思ひ出し
あぶなげな鍬のふりやう汗を掻き

黎明

根本保敎

ほのぼのと夜は明けぬ
太陽は靜かに昇りて
柔らかな光りを降りそゝぐ
萬物はみな明るく
海には黄金色の波がたち
山も野も生々として蘇つてくる
鳥は歌ひ樹々の緑は鮮かに
花は露に光つて
美しく輝く
人々の顔は希望にみちて
生きる喜ころびの
活動を始めてゆく

異人劍法【16】

（禁無斷轉載上演上映）

車谷弘　下山望東畫

二つの道（六）

暗い江戸川の川べりで、横尾平馬を駕にのせた武士は、默つてグン〳〵歩いてゐたが、

『雨だ』

と呟いて立停つた。

いまいましそうに夜空を仰ぐと目に見えぬ雨のしづくが還しい顔を打つ。

『とう〳〵降り出したア』

『弱りましたね旦那』

と駕もとまると、

『うむ、大分怪しかつたが……』

『こりやア旦那、本降りになりますぜ。から風が冷たくつちやア』

『待て待て』

武士はいきなり駕の中へ手をつゝこんで、平馬の編笠をひきずり出した。

『いやこれでよい』

と微笑して、編笠の紐を結んでゐると、

『しばらく』

平馬の弱々しい聲がした。

『暫時編笠の拜借を致すぞ』

『いや、私が歩きますぞ』

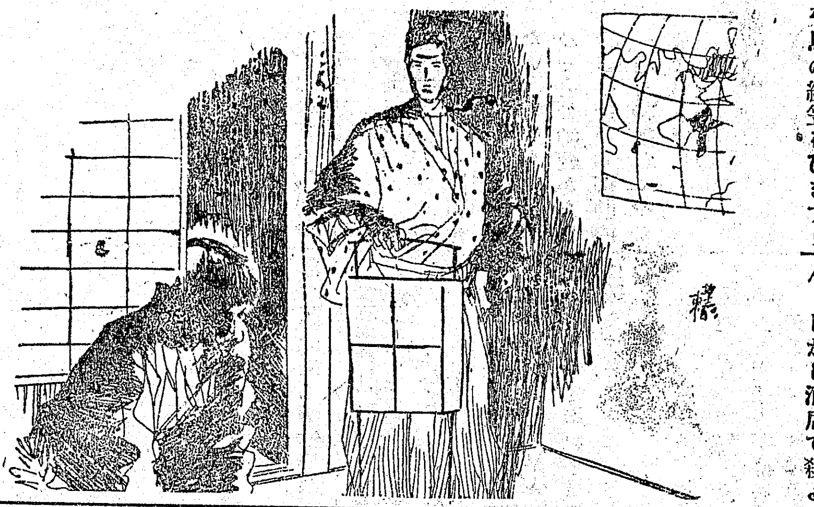
『御手前は疲れてゐる』

ときびしい聲で。

『つまらぬ遠慮はしないがいゝ』

『でも、この雨に…』

『心配無用、急げ』



『へい』

再び動き出す駕に、平馬はグタリとなつて揺られ乍ら、『危いところをお救けにあづかり御名前を問ふのも忘れてをりました。私は一つ橋の家中横尾平馬……』

『敵討と申されたな』

『はい』

『今、そんな時世かなア』

歩き乍ら武士はヅバリと云ひ放つた。

『わきまへてをりますわきまへてはをりますが、しかし……』

『兄の朋輩に兄を討たれて、そのまゝでは、すまされませぬ。それは兄にもいろ〳〵缺點があつたかもしれませんしかし酒席で殺されて、それでいゝといふわけはない。骨肉の情は骨肉だけしか分りますまい。所詮他人には分つてもらへぬ氣持かも分りません。しかも、しかも兄の朋輩たちにも冷たく見られます今度の樣な迫害まで受けます。何故でせうか。何故こんな目にあはなければならないのでせうか。これが此の世のならひなのでせうか……』

平馬の聲はふるへ乍ら、

『肚が立つてなりませぬ、口惜くつてなりませぬ。思へば思ふほど口惜しさが、骨身にしみわたつてくるのですが、あゝ我乍らふがひない、未熟な腕の面目なさ……』

聲は途切れて、溜息が出た。

『まア、そう焦るな、たかぶるな。後で話はゆつくり聞く』

『もし、御名前をお聞かせ下さい』

次第に本降りになつた雨の音に平馬の聲はのまれてしまふ。駕脇を歩く武士の足音が、力強く聞えるが、返事はなかつた。

平馬は危いところを救けられたといふ安心から、疲れた軀を駕にまかせてゐたのであるが、駕にゆられてさへすれば、それでいゝやうな氣がしてゐたのだ。しかしもう隨分長い道程である。ふとそれに氣がつくと、ぼんやりとした不安がひろがつて來た。平馬は夢から醒めたやうにハツとして

『もし、もし御名前を……』

『……………』

『この駕は、この籠はいつたいどちらへ參るのでございませうか』

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の自慢
平・大田町電323番

快適な筆觸
ウヱル萬年筆
金貳圓より數十種
佐々木のガラスペン
一本金拾錢より
ガラスペン中の第一級品です、一度御使用が永久の御愛用となる事請合
平市學校坂下
代理店 魁文堂 電話三一三

本場特選
スッポン
肺、肋膜、心臟、胃腸の弱い方も血となり肉となる
生スッポン
生血・生膽
平市六丁目本町通り
岡崎スッポン店
養龜所 平市正月町一番地

平市紺屋町 番話六八番
吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄

大衆向きの小口保險 三百圓より大口契約も
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店 比佐政種
好條件で外交員募る

㊅の削節
冷凍魚、鯨肉、ハム、ソーセーヂ、海苔、鰹節、其他食糧品
日本水産特約
ヒノマル食品店
平市三丁目 電話三八番

産科、婦人科
井坂醫院
（見習看護婦入用）
平市田町 電五五九

姓名鑑定
疾病、職業、天運、家族運、男女縁
名前のみで一代の運命がわかる……
平市紺屋町 鵜沼孝昌

平病院
（元共濟病院跡 電話四一番）
院長 醫學博士 鈴木定藏
内科、小兒科 院長 鈴木定藏
レントゲン科
物理的療法科
内臓一般外科 副院長 高橋俊幸
皮膚泌尿器科
藥劑師 部長 吉本幸平
毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます 祭日は此の限りにあらず

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
入院隨意 病室完備
平市南町 電話一七〇番

松村醫院外科部（平市南町）
内臓外科 整形外科 レントゲン科
松村外科
醫學博士 松村亭

乘合 貸切 馬車御案内
乘合區間平、夏井間、平發午前七時午前九時、午後一時、午後四時の四回
貸切馬車
は新体制下に於ける乘り心地よき快適な仕立
運行は朝の六時から夜間は十時まで料金市内七十五錢、市外四キロ二圓五十錢一キロを増す毎に一圓増
大河原トラック部
同 乘合馬車部
平市大町 電五七六

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三丁 安積中學より五丁
郡山市外大槻村針生（電九二五）
福島縣立代用精神病院
内務省指定
郡山腦病院
院長醫學博士 金磯五郎

御會食に
御商談に
割烹 幸樂
小名濱町幸樂通り
電話201番

内臓外科 整形外科
内木外科醫院
平市大町 電話七九番
醫學博士 内木宗八
▽入院隨時△

文選女工見習募集
高卒程度
年齢十五、六才
【希望者ハ本人來社アレ】
磐城毎日新聞社

外科一般、内臓外科
性病科、肛門病科
木村外科醫院
木村淳
平市南町（警察署通り角） 電話三〇九番
▽入院隨意△

國難克復祈願
皇太神宮參拜會
團体募集
一、期日 昭和十七年三月、拾月春秋ノ數回
一、行程 六日間、汽車一泊、旅館四泊
一、會費 金五拾八圓也
但し第一回申込金八圓也、第二回目より最終迄直接本部へ郵便振替ニテ拂ひ込ム事
一、日程
第一日…集合地、午後一時宮城前廣場…宮城遙拜…明治神宮…靖國神社參拜…晩食後東京驛出發
第二日…龜山にて辨當…午前九時過山田着…外宮內宮參拜…大神樂奉奏…晝食後二見浦見物…旅館宿泊
第三日…午前七時三十分宇治山田驛發…畝傍御陵前へ…御陵…橿原神宮參拜…橿原神宮驛前にて晝食…後一時發…奈良着後奈良見物（春日神社、大佛、鹿寄セ）旅館宿泊
第四日…午前七時奈良發…桃山御陵…乃木神社參拜京都へ…驛前にて晝食後京都見物…旅館宿泊
第五日…午前十時まで自由行動…午前十一時京都驛發名古屋へ…大津にて辨當…午後二時半名古屋着…熱田神宮參拜…名古屋城見學…旅館宿泊
第六日…午前六時名古屋驛發東京へ…沼津にて辨當午後二時半東京着後解散
注意
出發地より集合地までの汽車賃辨當は自辨の事、但日程、時間等は鐵道省の都合により多少變更あるやも知れざるにより豫め御承知置き願ひます
◎汽車、電車、自動車、宿泊料一切を含む、醫師及看護婦隨行
◎本會ノ旨意書ハ申込所ヨリ御持參ヲ乞フ
特典
一、參拜出發の節は本會理事有爵者附添ひ監督下さいます
一、皇太神宮、明治神宮の御守札を拜受し會員個々に頒布します
一、記念品として有爵者の揮毫になる肉筆の額、或は掛軸一品宛差上ます
一、戰歿將士の御遺族には帝展入選畫の揮毫になる作品も差上げます又出征家族には別に記念の書額を差上ます
顧問 子爵 北小路資武
顧問 陸軍中將 關角三郎
顧問 子爵 宇野正志
理事 子爵 有馬聰頼
理事 大久保忠春
常務理事 松平仁實
福島縣內外務主任 佐久間彌四郎
主催 日勝會 皇太神宮參拜會
東京市赤坂區新町五丁目四十三番地
振替口座東京三一五六番 電話赤坂(48)三八七七番
平市、石城郡内 外務主任 佐藤陽孝（平市古鍛冶町） 電(呼)五一二
申込所
新川町 田中宣治 電五六七
一丁目 和久井屋漆器店 電四〇五
三田小路 一の井 電一六七

だいこくやニュース
梅雨
配給品純綿朱子傘 大人用 3.90
〃 4.50
女學生用 3.10
蛇の目傘 小型文化傘 2.08
極上蛇の目 2.26
防水マント 通學用 6.76
大人用 16.26
レインコート男 11.00
オイルシルク女 14.30
平市 大黒屋

「火事」で取次ぐ
火災報知專用電話許可さる
平警防團防火陣强化

平警防團から豫て申請中の『火災報知專用電話』が川村平郵便局長の斡旋努力に依つて漸やく承認され六月廿七日附で仙台遞信局長から許可の指令があり、近く架設することになつた

この專用電話は遞信局に於て無料で特設し火災報知の際のみ使用出來る、即ち一般加入者が『火事だ!!』と局の交換へ告げると番號の必要も無く直ちに警防團本部へ接續される、火災報知に使用する場合公衆電話も無料で取次ぐ

一方警防團でも專用電話のベルが鳴つた場合直ちに出動の準備が出來る譯で非常に能率的となる

川村局長談

平市は人口の關係などから火災報知專用電話の設置を認られなかつたが、今度大都市並に架設されることになつたのは同慶に堪へぬ、一般加入者も番號を呼ぶ必要が無くなり便利だが、警防團側も專用ベルを聞くだけで出動の心構へして電話に出ることが出來る、火事は最初の數分間が最も大切であるから、專用報知電話の架設に依つて延燒を防ぐに相當役立つと思ふ、但し加入者の惡戯は嚴に自戒すべきである

士氣振作 三郡武道大會
武道强調期間の催し

今次變國週年を記念する武道報國强調週間中の催しとして七月六日午前九時から平警察署武道場で濱三郡七警察署管內の武道大會を開催することに決定、主催地の平署で各方面へ案內狀を發し準備を進めてゐる種目及參加資格は次の如く七警察署の代表選士や中等學生國民學校兒童、女學生の弓道參加などあつて參加者四、五百名の多數に上るものと豫想され、事變記念日に相應しい催しだけに盛會を期待されてゐる

會場、平署武道場

日時、七月七日前九時

地域、濱三郡七署管

參加、團体選士五名

1、國民校高等科

2、中等學校生徒

3、青年團、青年校

4、一般（警察官及國民學校敎員）

競技、柔劍道、弓道試合、團体試合、無段者、有段者、高等試合

柔道報國 講習開き
日本精神昂揚

別項一日から實施される「武道報國强調週間」に際し、磐城柔道有段者會は武德會平分會と合同主催の下に一日から一週間柔道講習會を開き、下撓不屈の日本精神を昂揚することになつた、講習要項次の如く多數の受講を希んでゐる

期日、七月一日より一週間

時間、毎日夜自七時至九時、約二時間

場所、平署武德殿

課目、投型、極型、乱取、審判法、講義、有段者には活法を傳授す

講師、磐城柔道有段者會幹部七名

用具、柔道稽古着

費用、要せず

產報青年
事業、計畫審議

平產業報國會青年隊では來る六日平署會議室に分隊長會議を開き豫算、新事業計畫等を審議する

お盆用の特配決り
上戸黨に凱歌
祝祭、會合にも一升以上の親心

平税務署では去る四月から六月まで第一次四半期として酒類特別配給を實施して來たが七月から更に第二四半期として清酒特別配給することになつた、今度の第二四半期特配は四百六十二石倉出しの豫定で第一四半期の三百二十五石（うち合成酒百石）に較べると百三十七石の增加である同税務署では第二四半期を前に二十八日管內市町村役場關係者を集めて協議したが

今回の特配は冠婚葬祭應召歸還入退營並に地方的の祝祭集會などに行ふもので從來冠婚葬祭應召歸還入退營には二升まででであつたが三升まで繰上げ、特別事情あるものに五升とし一方出產祝、新盆新築祝、出船などや地方的祝祭又は公的集合に一戸五合までを一升とし一人一合を二合までとした、なほこの外舊盆には一戸平均五合までの特配計畫を進めてゐる

第二四半期特別配給に關し税務署では次の如く語つた

去る四月から地方的行事に對し酒の特配を實施してをつたのですが未だ不徹底のやうで出願して來るものが思つたより尠なかつたのです、今後はどし〳〵隣組長を通じ申込んで貰ひたい、唯今も內鄕村の一之矢神社から申請あつたので御神酒一石を特配してやつたばかりです

遺作出版を祝ふ
『暮鳥の夕』
大正時代の詩人を語る

磐城文化協會主催『山村暮鳥の夕』は既報の如く廿八日午後七時からマルトモホールで行はれた、定刻協會委員五十嵐氏が司會國家儀禮の後中柴氏が編輯者として暮鳥の詩の變遷を語り『暮鳥の詩はバタ臭いとか感覺的表象的だとかいふやうな批評もあるがそれは聖ブリズムあたりの初期のもので晩年は日本詩人國民詩人としての自覺に達してゐた』と說いて、彼の日本國民を禮讃した詩を朗讀し、次いで高瀨氏が裝釘者としての所感を述べた後當夜中柴氏の持つて來た暮鳥の著書や原稿を中心に座談的に會衆各自に話を進め九時半平に緣の深い大正時代の大詩人山村暮鳥に就いて各方面から語り合つて閉會した

出席者（順不同）

石川武夫、高木稻水、佐々木顯、大泉源三郎、青木好子、荻野ケイ子、横山武、柴田嵜登、中柴光泰、高瀨勝男、內木宗八、柴田德三、畠山達、野澤武藏、松村亨、諸橋敬一郎、大平喜一郎、渡邊何鳴、增田之、五十嵐雄二

磐城文化協會
定例日と强化策決定

廿八日午後十時「暮鳥の夕」終了後サロン別室で磐城文化協會の委員會を開催左記案件を議し十一時過ぎ散會した

1、委員會定例日を二日十六日とし、午後七時集合のこと

2、藝能祭は準備の都合上七月末に延期盛大に擧行すること

3、大野村川前村に法律無料相談會をも加へること

4、機構に變更を加へ參與制を設け、官公衙長團体長、地方有力者を推戴すること

電話信號改善
應答ある迄ベルが鳴る

平郵便局の電話加入者呼出し信號が七月早々交換手を要せぬ無形式に改良することになり工を急いでゐる

無形式信號とは、加入者が相手方電話を呼ぶと相手方が應答するまでベルが何時までも鳴つてゐる、信號の方法は二秒間隔置いて一秒――機械的にこれを反覆する、又加入者が相手方の番號を呼び、文換手が接續しても相手方が他の加入者と通話中の場合は自動電話の如く信號に反應が現れ感受出來るこの無形式信號は接續だけで用が足りるから交換手が非常に能率的となり、從來相手方の應答が遲いと交換手の怠慢の如く加入者からどなられるやうなことが解消する、平局では『責任を回避する譯では無いが今度は交換手も助ります』と大喜び

魚行商繩張問題
配給所の斡旋で解決

去る二十七日福島公會堂に於て開催された生鮮魚介出荷及び配給業者聯合協議會に於て過般來繩張問題で御互に出縣陳情陣を張つた生產地より直接鮮魚を需要地に行商する魚商人と、これを阻止すべく對抗した配給所側との維緯に關しては同協議會の論議の中心となり相當議論、意見も出たが、結局縣當局から配給所へ一切を委員小名平兩所で協議の結果圓滿に裡に解決した、尙縣令の精神を無視するものは司法權の發動で高所より取締る模樣である

前線慰問通信
★☆★☆★【32】☆★☆★☆★

羅漢堂の雲林寺に
弘法大師の像
蘇州より上海の途次
縣議 木村守江氏

六月七日　晴

一分隊の兵隊と共にトラックに乘り岳王廟を見る

この廟は棲霞嶺の麓にあり宋の忠臣岳飛を祀つたところである。抗州に遊ぶ人必ず訪れてその武勇と忠誠を偲ぶところである。

この廟下には鳳林寺があり唐の禪僧烏巢と白樂天の問答で有名な禪寺である。尙ほ奧地に入れば此處より天竺に至るとの古い道標がある約一里程行つたかと思ふ所に雲林禪寺がある。事變の爲め破壞された總門を潛れば「冷泉橋」が淸流に架けられてある、橋を渡れば左に奇峯がある。これを飛來峯と言ひ又靈鷲山とも言つてゐる天竺の靈鷲山が飛來したものであるとの傳說 [illegible] い因緣がありその怪石林立する山容は正く千古の奇である。この山の下は洞穴となつてゐる、嘗て弘法大師が來遊して書いたといふ「來て見れば故鄕の秋や飛來峯」の碑がある附近の山腹の巖壁には夫々〳〵由緒を有つ佛像と文字が刻まれてゐる、洞の前に「理公塔」あり、ここから溪流に沿ふて上れば雲林寺の堂宇がある、晋代の建立で初め靈隱寺と稱し清代に雲林寺と改められた、羅漢堂の古い五百羅漢は有名である、こゝに濟公尊者の佛像がある、これは弘法大師の像である、弘法大師を支那人は濟公として尊敬したのである、この地は中天竺と稱し上天竺より流れるといふ淸流である

次に淨慈禪寺に行くこの地は杭州の防空本部があり理想的な防空壕が造られてある、通風換氣や間取りなど立派なもので蔣介石もこゝの壕の中にゐたこともあるとのことである、一寸も破壞されずに造られたまゝに殘つてゐる、それから約二里をトラックにて錢塘江に架る開口鐵橋に至る、これは事變直前に莫大なる金額を投じて造られたといふ東洋第一の大鐵橋で長さ約一八〇〇米で殆んと完成してゐた、この鐵橋は二重になり下段は鐵道線路となり上段が自動車並に步道となつてゐる、然し敗戰に逃げる蔣軍はこれを破壞して行つた爲め使用に耐へぬ狀態である、この對岸には支那兵がゐる、こゝを警備してゐた兵隊は双葉郡大野村の手塚軍曹であつたので話が故鄕へもどり、戰地に來て四年目に始めて國の人に會つたと喜ろこんでゐた唐天竺から錢唐江附近の見學を終り西湖の畔に歸つて一時間五十錢の支那船に乘つた、西湖は三方が小高い[illegible]で包まれ一方が抗州の市街に面してゐる街から中山公園のある孤島に至る堤防は（道路）白樂天が造つたもので白堤と稱し、これと殆んと直角に走る堤が蘇東坡の造つたもので蘇堤といはれてゐる一時間半程乘り廻したがいくら見ても盡きぬ西湖の眺めである、よく造つたものだと驚ろきの嘆息外には一つの詩も出なかつた

午後三時二十分の汽車で抗州を出發することにした、停車場には久野曹長、木田伍長が來てゐた、爾君の元氣な便りを土產として上海に歸つた。

六月八日晴天、日曜日だといふので一日休養することに相談一決する、午前十時頃まで宿の布團の中にもぐつてゐる、總領事館の菅野庄太郎君が背廣服を持つて來る、今晚五時から佛蘭西租界で四倉出身者丈で晩餐會をしたいから御都合はと聞かれる、丁度豫定がないので早速贊成の旨を告げれば佛祖界は危險だから軍服や國民服はいけないからこの背廣を着るやうにと屆けてくれる、御好意に從つて早速着て見ると少し胸幅が狹くて苦るしいが我慢の出來ぬ程でもない、午後からは佐々木縣議と二人で背廣姿に變裝して上海市街を步いて見る、借着が身につかぬので何となく變な氣持だが別に往來でも怪しむものもないこれでは大丈夫向ひ側（日本租界と共同租界に佛蘭西租界は黃浦江で分たれており、こゝに架けられた橋を渡らねば佛界にも共同租界にも行けぬ、この代表的な橋がガーデン、ブリツヂである、それで佛蘭西租界を俗稱向ひ側といふ）に行つても重慶テロに狙はれる心配もないと思ふと獵奇心にかられて一刻も早く常に爆彈事件で問題の起る向ひ側に行つて見たくなるが一人で行く勇氣もない、迎ひに來るのを待つてゐたが仲々來ない、やつと午後四時半頃鈴木忠太郎君が來る、一諸に出掛ける、一人づゝ行くのは危險だといふので待つてゐてくれた喫茶店に行けば千葉成夫君、片寄秀士君、戸田喜一君、佐藤政勝君、菅野君がゐた、戸田善一君は最近總領事館巡査となつた人で一緒に支那に來たのであるが外の人達は五六年前に顏を見た丈であるので殆んど顏の恰好も忘れかけてゐた位である、相互に珍らしがる、千葉君は東京帝大出の秀才であるが、其の後思想問題で連座して以來十年も會はなかつたのでどんなに變つたかと思つてゐたが禿げ上つた前額に明晰を語る光つた瞳は角帽の學生時代とあまり變つてはゐなかつた

愛國防空壕
浸透の心配解消

平警防團で市民の防空思想普及の目的で既報の如く平署及市役所の兩構內へ愛國式防空壕を設置したが運搬中乱暴な取扱ひを爲した爲外部の塗裝に障害を來し据付け後間も無く地下水が浸透使用に堪へなかつたので受國防空壕促進會へ嚴重抗議し技術員派遣修理中の處卅日据付けを了した

今度はどんなに降雨などあつても絕對に地下水の浸透するやうなことが無く成つたので一般市民へ公開し普及に努力めることになつた

パンで御奉公
製パン報國聯盟結成

飯米規正に伴ひ主要食糧品として食パンが大きく浮び出し、パンの販賣問題が各方面から喧しく論議されて來た爲、平市及內鄕村を含むパン製造業者は打つて一丸となり、パンに依る職域報國を行ふべく去る廿五日平菓子商組事務所に一同會合「平製パン報國聯盟」を結成することに決定七月四日發會式を擧げることになつた

平地方は人口稠密した常磐炭礦方面の物資供給地として縣內最高の消費地でありながら製パン用の小麥粉配給は縣內四市で最も尠ない現況にありこれが增配運動に依つて主食パンの賣數量の增加や共販同製パンなども計畫されてゐる模樣である

【役員】△會長、新田目春松△副會長、小山田吉治△幹事會計吉田博、同市川祐男△囑託、野崎順

魚類處理の
怪文書
縣は明確に否定

過般小名濱町で『漁獲品を生產業者は自由に處理しても良い』と某生產者が農林省技師の確言として文書を各方面に頒布した怪文書問題は縣當局も放任して置けず『如斯事實は絕對になく本省及び縣の一貫した方針に基き生產者並に仲買人共一本建で進む事』を明確に指示した

[illegible]

今日大祓日
（けふおほはらへ）
半歲の罪ご穢を除く

今日は六月晦の大祓（ミナヅキツゴモリノオホハラヘ）の日です、昔は名越(夏越)の祓ともいつてゐます、過去半年間に知らず識らずの間に過ち犯した罪や穢（ケガレ）を神樣に取り除いて戴く日です、十二月にも同じ儀式が行はれ宮中では賢所で嚴かな大祓が行はれます、平市では鎭守樣になつてゐる子鍬倉神社で大祓の儀式が執行されます、先日各戸に配られた形代は午前八時から今晚の九時迄受けつけ社前で大祓の儀式を行つた後鎌田橋の上で河から海へ流す儀式を行つて形代を夏井川に流してやります、なほ古いお札や、神具類の燒納祭も同時に執行される事になつてをります、

事變關係
磐女展覽會開く

磐城高等女學校では來月五日から七日迄生徒に時局の認識を強めるため事變關係の展覽會を催す事になつた

五日七日は放課後生徒だけに公開、六日は日曜なので一般にも公開する、展覽物品は生徒中の父兄應召歸還軍人等から出品されたものである

蓮沼氏經營
磐新證券
三日から營業

平市田町縣議蓮沼龍輔氏は予て有價證券業の免許方を申請してゐたが去る十六日附で商工大臣の許可指令を受け白銀町九番地に車務所を設け七月三日から磐新證券商會の營業を開始することになつた

取引擔任には奈佐佐三氏が當り柏木、本間、佐川氏等店員は何れも富國株式店に永く勤務した經驗者揃ひで將來の發展を囑目されてゐる

安全週間
平驛關係で祈願

平驛では安全週間第一日[illegible]の明一日午前九時檢車區、車掌區と共に縣社子鍬倉神社を參拜無事故を祈願する

應援隊に
農村感謝

平市下平窪方面の田植は特に學生部隊の應援があつて順調に捗り二十八日全部終了したが同方面のお百姓は學生の田植作業に痛く感激し同二十八區會川區長は今三十日午前農事實行組合長と共に勸勞奉仕作業に出動した磐中、磐女、平商、藤田、平陽の各學校を訪問『お陰で順調に進みました……』と感謝の意を表した

獻金
平市城山 磐城佑賢

寺では生徒のプリント代を節約三圓四十二錢を國防獻金へと二十七日本社へ託した

銃後の赤誠
託兒所其他獻金

平市九品寺農繁期託兒所ではお祝金の一部を割いた金五圓を今三十日市銃後奉公會へ寄附した

なほこの外市社會事業助成會へ同託兒所保姆佐藤ハル、增尾トウ、吉田フヂ、荻マスさん等から十五圓同託兒所九品寺住職遠藤心光氏から五圓、紺屋町熊谷圓之亟氏より紙芝居の御禮金五圓の寄附金が今三十日あつた

息子の供養
四十圓寄附

四倉町字志津金成喜久之助さんは長男重定君（三）死去に依り四十圓を左の諸團体に寄附した

△各拾圓宛、町銃後奉公會、國民學校、警防團、在鄕軍人分會

尙重定君は去る十四年三月歸還した勇士にして應召中〇〇部隊長より模範勇士として表彰せられた

兵營訓練
平商生若松へ

平商業學校では來る七月十四日から十八日迄五年生が若松部隊にて兵營宿泊を行ふことになつてゐる

研、古常會
四百名參集

平市第二區（研、古）常會は昨二十九日午後七時から天理敎平支部に開催、關內警防團長の警防に關する講演並に諸橋敬一郎氏の貯蓄の講演があり終つて熊谷氏の紙芝居あつたが參集者約四百名、區常會としては未曾有の盛會であつた

海水浴客
四倉旅館の對策

四倉警察署管內旅館組合の總會は去る四日午後一時より同署內に開き夏の衛生並に海水浴の扱ひに關し協議を行なふ筈である

新物野菜
最高價決定

ナス、カボチャ、キウリなど新もの野菜の出廻りにそなへ平青果組合では次の如く取引野菜の最高價格を決定

△ナス、九錢（七月）四錢、（八、九）△カボチャ（七錢（七月）五錢（八、九月）△キウリ、十錢（七月）四錢（八、九月）△馬鈴薯、四錢（七月から）

事變記念日
四倉町の計畫

四倉町では來月七日の支那事變第四週年記念日當日全町民一齊に早起して國旗掲揚、午前七時のサイレンを合圖に全町各隣組集合して宮城遙拜・國歌奉唱・默禱捧げ午後一時から國民學校に臨時町常會を開催する、尙興亞奉公日當夜は各隣組常會を開催することを申合せた、

一方町役場では午前八時全員庭前に整列し國旗掲揚、宮城遙拜、國歌奉唱、默禱等を行ひ、終つて第三班に別れて役場內外の勤勞美化整理等を行ふことである

獻金二回
杭木會社小瀨野君

平市二丁目東北杭木會社社員小野瀨四郎君は第二回獻金として二十七日平署を通じ金五圓を國防獻金した

亡夫供養
銃後會卅圓寄附

平市鍛冶町機械商井尻操さんは亡夫七三郎氏の葬儀費用を節約二十八日平市銃後奉公會へ金三十圓を寄附した

鍛錬競爭
出場馬決る

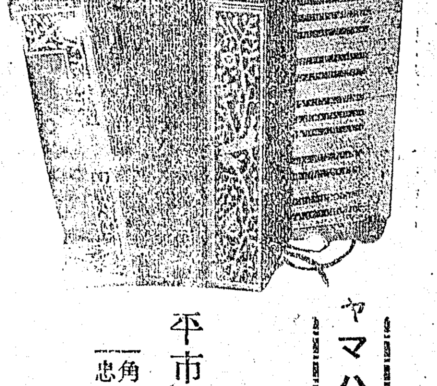
平市七軒町荒川恒次郎さん所有喜閑號、同新町吉竹弘次さん所有遠山號の二頭は來る十一月郡山市で開かれる鍛錬馬競爭出場馬にこの程指定された

平市慶弔錄

【婚姻】平市字白町鍛九番地福田久夫（三六）さんと福島縣安達郡小濱町字藤町二十四番地黑羽ナツ（二三）さん

正しい
軍服調整
（元陸軍御用達）
入營 應召には
軍服仕立に絕對的自信を持つ
陸軍砲工學校指定の經驗を誇る
軍服 乘馬ズボン 紳士服 國民服
平市田町丸新デパート內
菊地洋服店
電呼二十八番

商工省免許
有價證券業
開店
七月三日より
公社債
株式賣買
福島縣平市字白銀町九番地
磐新證券商會
店主 蓮沼龍輔
取引擔任者 奈佐佐三
店員 柏木哲
同 本間三郎
同 佐川傳之助


ヤマハ・アコーデオン
十八圓より各種
平市公園前
（角忠）佐々木商店
電話二三三番